



地下タンク及びタンク室等の構造・設備に係る 評価業務



土木審査部

上部空間室があると、例示基準の適用が困難な場合があります！

地下タンク貯蔵所に係る技術基準は、平成17年に性能規定の導入が図られたことから、許可・検査等の事務の効率化を確保する観点から一般的な構造例（以下「例示基準」という。）が、平成18年消防危第112号通知で示されました。

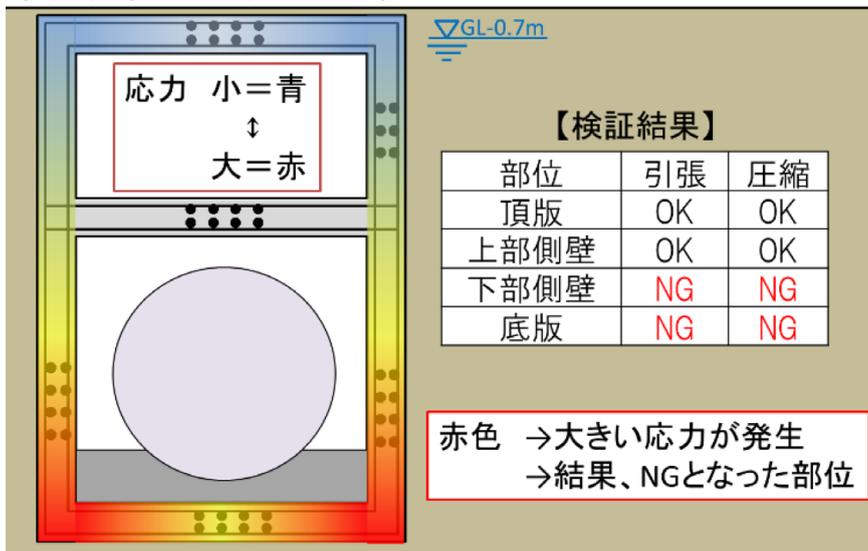
例示基準は、タンク室が浅い位置にあることを前提に示されたものです。

例示基準に示された50kLタンクに、内空高さ1.7mの上部空間室を設け、構造計算を行ってみた結果、下部側壁と底版が「NG」となりました（下図参照）。

上部空間室があると、上部空間室の高さ分だけ地中深くに設置されることとなるため、受ける外力（土圧・水圧）が大きくなり、例示基準では基準に適合しないことを示す結果となりました。

上部空間室があると、**例示基準の適用が困難な場合がある**ため、当協会が行う本評価業務を活用するのが有効的です。

検証結果の応力発生状態模式図

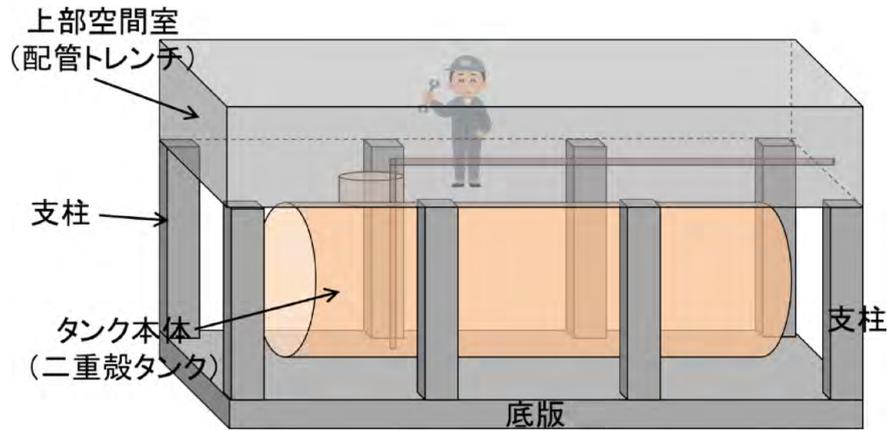


上部空間室を有する直埋設型地下タンクの構造評価も行っています！

地下タンクの性能評価業務は、タンク本体が規則第23条の4に規定された「タンク室」に設置されたものを対象としていますが、下図に示すような特殊な設置形態の評価も実施しています。

これは、タンク本体は直埋設であり、タンク本体上部に支柱で支持された「上部空間室」が設置された構造です。当協会では、支柱を含めたコンクリート躯体全体の構造安全性の確認を行っています。

このような案件は、当協会が従前より実施している「**技術援助**」業務で申請を受理しています。



R6年度受託実績

本評価業務に係る令和6年度の受託実績（3月末現在）の件数を下表に示します。

本評価業務は、平成30年度から開始しましたが、昨年度は、最も多い受託件数となりました。

なお、昨年度の受託件数31件を都道府県別にみると、東京都14件、神奈川県6件、北海道4件、千葉県2件、京都府2件、宮城県1件、愛知県1件、島根県1件となっています。

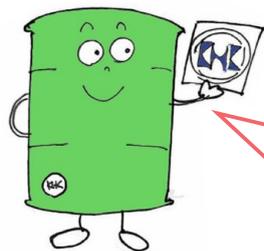
R6年度受託実績件数（3月末現在）

	横置き	縦置き	小判型等	変更	合計
R6年度	24件	1件	0件	6件	31件

【参考】

令和6年度の受託実績の詳細については、機関誌「Safety&Tomorrow」（令和7年5月号、220号）をご覧ください。

上記の「タンク本体の型式別」のほか、「上部空間室有無別」や「建物への近接有無別」も併せて、受託案件の傾向について記載しています。



【お問い合わせ先】

危険物保安技術協会 土木審査部
TEL 03-3436-2354